

## 令和4年度 社会福祉法人 茜会事業報告

理事長 高橋 泰子

思いもよらず3年間のコロナ伝染病蔓延は、様々な形で社会を変えてしまっているといえる。

未だ原因が明確になった様で、すっきりせずただ残された「ワクチン問題」が大きく取沙汰されている。

令和4年の法人事業の在り方では、事業ごとに報告を行うが全体として6月に交代した新施設長が中心となり、大きな変化や波を職員と共に乗り越えてくれた一年であったこと、

しかし、GH からの発生で3年間免れてきた「コロナ蔓延」が令和4年8月には、クラスターとして発生し様々な行事や、活動中止を余儀なくされた。

コロナによる直接の原因とはいえないが、病気入院加療の必要な方も出てきて、枚挙にいとまがない一年であったといえる。

また予測もしていなかった、高齢ご利用者の入院、手術、リハビリの必要性が増え、あわただしい年の瀬、新年を迎えた。

入院・手術はそれぞれに成功を収め、加療中であるが男性棟ご利用者のお一人は、小脳の病気が進み、自立して立位や日常生活の所動作ができなくなり、病院側も難病として対応していただくことになり、病院への入院となった。

あかね園最高齢者であった女性ご利用者は持病のぜんそくの悪化が進み、夜間の発作が進むと生命に危険を及ぼす可能性が高まってきたために、専門病院への入院ができ、現在治療中である。

がんの治療も必要となった方が出てきて、現在手術後治療が始まり4クール目に入り元気に加療を続けている。以下医療管理部よりの報告に代える。

### 【福岡県福祉労働部による指導監査の実施】

福岡県指導監査が予定されていたが丁度コロナの大流行と重なり8月4日から9月7日に変更としていただき、実施された。

令和4年9月7日福岡県福祉労働部福祉総務課より3名、監査指導係より4名の県職員の方が来園され、熱心に指導・監査指導を行っていただいた。

変わりゆく労働条件を始め、運営規定の見直し、その他会計(法人・事業関係監査)日中活動事業、就労継続支援 B 型事業、GH 事業等多岐にわたる事業を全般的に

ごらんいただき熱心なご指導をいただくことができた。

次にコロナ禍であったが、令和4年度は法人として茜会におきましては幾つかの慶事があり、表彰状等をいただくことができた。

#### 【表彰状の授与】

○令和4年10月26日(水曜日)大野城市クローバープラザ アリーナ棟に於いて  
表彰状の授与式 福岡県社会福祉協議会より、法人代表として茜会は、「開設以来永年の社会福祉事業経営の推進に寄与したことに対して授与された。

○令和4年11月3日(木曜日)飯塚市市役所 1階に於いて  
表彰式 市勢振興功労者表彰  
16年にわたり、飯塚市障がい児・者に対する、「障がい福祉施策対策委員会」に委員として

#### 【飯塚市文化連盟 筑穂支部 文化祭の開催】

令和4年11月12日(土曜日)・13日(日曜日)両日にわたり、飯塚市筑穂交流センターにおいて、あかね園として文化祭に参加した。

参加団体は6団体であり、ステージではカーサリング(コーラス)・茜太鼓(あかね園・吟詠・あかねクローバー・三線等が演じられた。

会場では、書道、川柳、生け花(あかね園)、絵画(あかね園)、さをりおり(あかね園)等季節を感じる川柳や書道の展示の前にあかね園の生け花を展示させていただき、正面玄関にはあかね園初参加の絵画やさをり織りを展示させていた抱き、賑やかな文化祭を展開できた。

日頃より参加されている団体の中にあかね園が参加させていただいていきたが、あかね園も一度ご恩返しのつもりで、お役をいただき法人・理事長として地域共生社会づくりに貢献させていただけたのかと感じている。

コロナでやりたいこと、やれたこと、沢山積み残しをしてきているように思えるが、コロナ禍を体験したからこそ、気づかされたことも多くつらいことや残念なことをベースにこれからの法人の飛躍につなげて行けたらと、感じている。

#### 【新規事業の進捗について】(茜会日中サービス支援型グループホーム新築工事)

茜会全体の課題の一つとして、利用者様の「高齢化・重度化」がある。それらの課題に対応する為に、ゆっくりとした時間を過ごす空間であったり、よりプライベートの時間を過ごせ、また感染症にも対応できる個室を兼ね備えている「日中サービス支援型グループホーム」の新設事業については、実施設計に着手し、令和6年6月オープンに向け進捗している。